

氏名	金 在 順
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2112 号
学位授与の日付	平成12年9月30日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Characterization of Epstein-Barr Virus-Infected Mantle Cell Lymphoma Lines (EBV感染マンツル細胞リンパ腫細胞株の特徴)
論文審査委員	教授 岡田 茂 教授 山田 雅夫 教授 原田 実根

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

これまでマンツル細胞リンパ腫細胞 (SP53) に EBV を感染させることは困難とされてきたが、我々は SP53 に neomycin 耐性遺伝子を組み込んだ Akata 細胞由来 EBV を感染させ G418 で select することにより、100%EBV 感染率を示す SP53 細胞(SP53/EBV)を得ることができた。SP53/EBV は EBER1, EBNA5, LMP-1 陽性で lymphoblastoid cell line(LCL) type の EBV 遺伝子発現パターンであったが、LCL で誘導される activation marker (CD23, CD30)は発現しなかった。*in vitro* での doubling time は SP53 が 57 h に対し SP53/EBV は 73 h と延長した。ヌードマウスにおける腫瘍形成能は EBV 感染後に低下した。しかし、低血清により誘導されるアポトーシスに対しては抵抗性を獲得した。今回得られた SP53/EBV 細胞は低増殖能、activation marker が誘導されない点、アポトーシス刺激への抵抗性等の点で *in vivo* における EBV-reservoir B cell に想定される性格を有すると考えられ、*in vivo* の EBV 潜伏感染を研究する上でのよい材料となることが期待される。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究はSP53にneomycin 耐性遺伝子を組み込んだAkata細胞由来EBVを感染させG418でselectすることにより、100%EBV感染率を示すSP53細胞(SP53/EBV)を得たものである。SP53/EBV細胞は低増殖能、activation marker が誘導されない点、アポトーシス刺激への抵抗性等の点で*in vivo* におけるEBV-reservoir B cellに想定される性格を有すると考えられた。本研究は*in vivo* のEBV 潜伏感染を研究する上でのよい材料となることが期待されるものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。